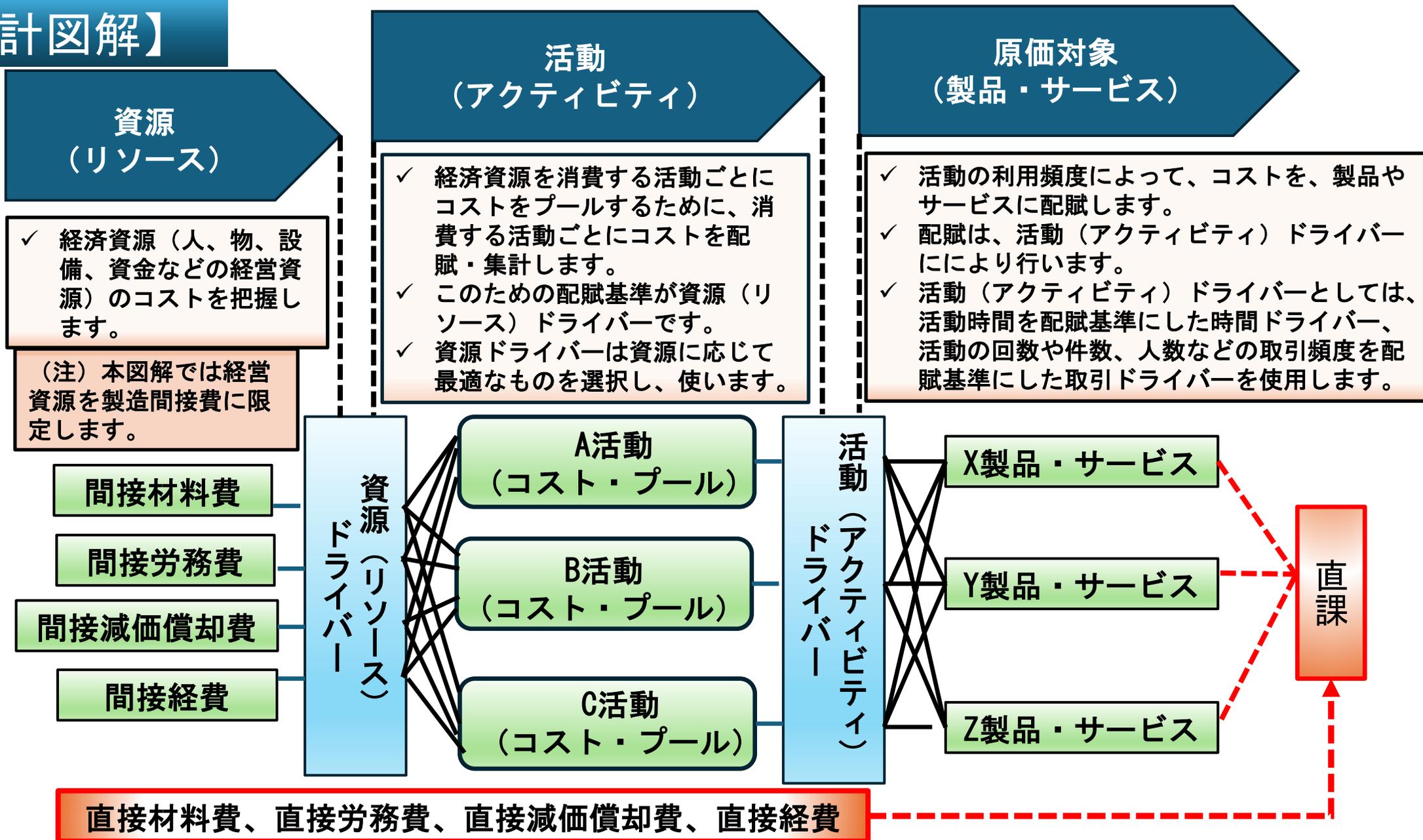


【ABC会計図解】

「活動ごとにコストを分類・集計・プール」
「活動の利用度合いでコストを割り当てる」

活動基準原価計算の流れ



ABC会計 (Activity Based Costing : 活動基準原価計算)

- D社の事例を伝統的会計とABC会計で解いてみましょう。
- D社では、製品Aと製品Bを製造しています。
- 製品A及び製品Bの売上高、原価状況を【P2】の【表1】で表します。
- 【表1】のデータを基に、伝統的会計とABC会計による原価計算を【P3】の【表2】【表3】で実施。
- 【P3】の原価計算【表2】【表3】に基づく売上高、限界利益の比較は【P4】の【表4】を参照。
- 【P3】のABC会計【表2】の注釈・計算根拠(1~5)は、【P5】を参照。
- ABC会計に関するABM(活動基準原価管理)、ABB(活動基準原価予算)については【P6】を参照。

【表1】 売上高、原価状況

(単位：万円)

	A製品	B製品	合計
売上高	720	80	800
直接材料費	90	10	100
直接労務費	90	10	100
直接作業時間	90時間	10時間	100時間
間接費	200		200
限界利益	—	—	400

【表2】ABC会計による原価計算（計算根拠は【P5】の1.～5.を参照）

間接作業活動区分	活動毎コスト	A製品作業数	B製品作業数	活動1回のコスト
1 材料手配・受入れ	2 40万円	3 15回	5回	4 2万円/回
品質検査	60万円	10回	10回	3万円/回
梱包・発送	70万円	4回	3回	10万円/回
伝票処理	30万円	10回	10回	1.5万円/回
間接費計	200万円	5 115万円	85万円	—
費用計	400万円	295万円	105万円	—
(直接材料費、労務費)	(200)	(180)	(20)	—

【表3】伝統的的原価計算（作業時間）による原価計算

	A製品	B製品
直接作業時間	90時間	10時間
間接費	180万円	20万円
費用計	360万円	40万円
(直接材料費、労務費)	(180)	(20)



【表4】 伝統的的原価計算とABC会計による原価計算を比較（隠れていた赤字が詳らかに）

区分	伝統的的原価計算			活動基準原価計算（ABC会計）		
	A製品	B製品	合計	A製品	B製品	合計
売上高	720	80	800	720	80	800
直接材料費、労務費	180	20	200	180	20	200
間接費	180	20	200	115	85	200
費用計	360	40	400	295	105	400
限界利益	360	40	400	425	▲25	400
限界利益率	50%	50%	50%	59%	▲31%	50%

□ 配賦基準

- ABC会計：間接費用⇒資源（リソース）・ドライバーにより活動ごとに区分け（コストプール）⇒活動ごとのアクティビティ・ドライバー（取引ドライバー〈回数〉）の確定⇒アクティビティ・ドライバー（取引ドライバー〈回数〉）ごとの単価（配賦単価）の確定⇒アクティビティ・ドライバー（回数）×活動時間、回数、人数当りの単価＝配賦額⇒配賦。（詳細は【P5】を参照）
- 伝統的会計：間接費用を直接作業時間により配賦。

【表2】の
活動基準
原価計算
根拠（1～5）

1. 費用が発生する作業「活動」（ユニット）を、
- 「材料手配・受入れ」
 - 「品質検査」
 - 「梱包・発送」
 - 「伝票処理」とします。

1

2. 各活動にかかるコストを調べ、割り当てる。
- 材料手配・受入れ…40万円
 - 品質検査……………60万円
 - 梱包・発送……………70万円
 - 伝票処理……………30万円

2

3. 活動（アクティビティ）・ドライバーを決め、その作業数（取引ドライバー）を計算し、（次の4.で）作業数（取引ドライバー）1回当たりの間接費はいくらかかるか、という順序で計算。

- 材料手配・受入れ…材料手配・受入れの回数（A15回、B5回、計20回）
- 品質検査……………品質検査の回数（A10回、B10回、計20回）
- 梱包・発送……………梱包・発送の回数（A4回、B3回、計7回）
- 伝票処理……………伝票伝票処理の回数（A10回、B10回、計20回）

3

4. 「各活動にかかるコスト÷作業数＝活動1回当たりにかかるコスト」を計算。例えば「材料手配・受入れ」のアクティビティ・ドライバーはA製品とB製品を合わせて20回なので、40万円÷20回＝2万円／回と計算できる。

- 材料手配・受入れ……40万円÷20回＝2万円／回
- 品質検査……60万円÷20回＝3万円／回
- 梱包・発送……………70万円÷7回＝10万円／回
- 伝票処理……30万円÷20回＝1.5万円／回

4

5. A製品とB製品にかかる間接費を、それぞれ活動単価に回数（取引ドライバー）を掛けて計算し配賦する。

- 材料手配・受入れ…A：2万円／回×15回＝30万円、 B：2万円／回×5回＝10万円
- 品質検査……………A：3万円／回×10回＝30万円、 B：3万円／回×10回＝30万円
- 梱包・発送……………A：10万円／回×4回＝40万円、 B：10万円／回×3回＝30万円
- 伝票処理……………A：1.5万円／回×10回＝15万円、 B：1.5万円／回×10回＝15万円

5

- このようにして間接費を計算するとA製品は115万円、B製品は85万円となります。

ABC会計からABM、ABBへ

ABM (Activity Based Management: 活動基準管理) とは、

- ABC (Activity Based Costing: 活動原価基準管理) によるコスト情報をもとにして、業務の必要か否かを検討し、それを業務の改善に結びつけ、生産性をアップし、利益の改善を目指していく管理手法です。

ABMのステップ

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. 活動分析
● (分析例①、②) | ① 顧客価値の創出に役立つ付加価値活動と、創出してない非付加価値活動に分け、プロセス・アプローチを加え分析し、非付加価値活動のムダを排除し、生産性向上を目指す。 |
| | ② コア・アクティビティ (部門・組織のミッションに直接寄与する付加価値業務)、支援アクティビティ (コア・アクティビティを支援する業務)、付随アクティビティ (組織やシステムの欠落によって生じる業務) に区分し、支援アクティビティの50%、付随アクティビティの100%削減を目途に、改善をし、生産性向上を目指す。 |
| 2. 活動 (アクティビティ) ・ドライバー分析 | ① 頻度分析と改善 (回数、時間、人数などの、消費頻度の、改善) |
| | ② 単価分析と改善 (回数、時間、人数などの、1単価当たりの、コストの最小化を図る) |

ABB (Activity Based Budgeting : 活動基準予算管理) とは、

- ABC (活動原価基準管理)、ABM (活動基準管理) による情報をもとにして、活動別に予算を編成する考え方。
- ABBを行った上で、予実管理を実施し、差異分析を行い、問題点を改善し、生産性の向上を図る。